2008
No. 8
Nov.

メディカルネットワーク

発 行 東京女子医科大学東医療センター　〒116-8567　東京都荒川区西尾久2-1-10
電話03-3810-1111　ＦＡＸ03-3894-0282　http：//www.twmu.ac.jp/DNH/index.html

日暮里クリニック開院一周年を迎えて

日暮里クリニック　４階　所長　齋藤　壽仁



日暮里クリニックの現況を当院の特徴的な部門を中心に報告いたします。

現在４階には内科、外科（乳腺外科、一般外科）、整形外科、形成外科・美容外科、心臓血管外科、泌尿器科、細胞治療、ウエルエイジングドック、女性専門外来、スポーツ健康医学、皮膚科の１１部門を、５階には眼科、美容医療部の２部門を設置しております。

昨年１０月から今年９月までの間（２８２日）にクリニック全体でのべ３５，０８２人の方々にご来院頂きました。本年９月には３，５７８人が来院され、昨年１１月の１．７倍に増加しております。

女性専門外来には年間２２６人の新患が来院され、更年期障害と月経不順を主訴とする方が５９％を占めていました。全員が以前に他院を受診されていましたが、当院での内分泌検査や画像検査により新たに２７％に器質的疾患の診断が可能でした。

乳腺外科には、のべ２，９６９人の患者様が来院されました。乳腺エコー、マンモグラフィー、生検組織診断による専門診療が行われ、近年の乳癌の増加を考えますと、当部門の地域で果たす役割はますます重要になると思われます。

細胞治療は自費診療で活性化自己リンパ球移入療法を行うがんの免疫療法の一つで、この部門にはのべ６２８人の方にご来院頂きました。

加齢に伴う心身の様々な不調を感じている方々に対し、自費診療のウエルエイジングドックを開設し、高次機能検査や画像検査による中枢神経系の機能評価を行って適切なアドバイスを提供できるよう努めています。

５階眼科では白内障日帰り手術やレーザー治療を行い、のべ９，７５５人の患者様がご来院されました。

美容医療部門ではのべ２，２９２人の方が来院され、自費診療による先端技術を導入した特殊治療が施行されています。


（サンマークシティ日暮里ステーションポートタワー）

当院は今後も東医療センターおよび東洋医学研究所と一体となり地域のニーズに沿った先端の診療を推進していく所存です。ご紹介頂ける患者様がいらっしゃいましたら何とぞ宜しくお願い申し上げます。

形成外科・美容外科の紹介

日暮里クリニック　形成外科・美容外科
教授　仲沢　弘明



昨年１０月に日暮里クリニック４階に、形成外科・美容外科を開設いたしました。

午前中の診療は、東医療センター形成外科と同じように、皮膚腫瘍や傷痕（瘢痕、ケロイド）、熱傷や切り傷といった外傷など一般的な形成外科の診療を行い、午後は、あざ、しみ、肝斑、しわ、ニキビあとの治療、近年社会的に注目されているアンチエイジング治療、脱毛などの美容外科の診療を行っております。それぞれの疾患に対し、ケミカルピーリングやボトックス・ヒアルロン酸注入治療、最新のレーザー機器や光治療機器を用いた治療を、**日本形成外科学会認定の専門医**が責任を持って行っております。

対象疾患や治療費等の詳細についてはホームページ

http://www.twmu.ac.jp/DNH/mce/keisei/

をご覧ください。患者様のご紹介をお待ちしております。

何卒、よろしくお願い申し上げます。


（日暮里クリニック４階待合室）

泌尿器科の紹介



泌尿器科 准教授　中澤　速和

当科の歴史は平成７年に田端駅前クリニックが開院し、泌尿器科と血液透析の外来を開設した時に始まります。

現在の西尾久本院に外来を開設したのは平成１０年であり、まだ若い医局です。当科の役割は大学附属病院として高度な先進医療を提供するとともに、荒川、足立地区において泌尿器科基幹病院として幅広く泌尿器科診療に従事することであります。

当初、２名で発足し慢性的な人手不足に悩んできましたが、現在はスタッフ５名、後期研修医１名と設備とともに診療体制も充実してきました。

当科は泌尿器科全般の診療を幅広く行っていますが、特に腎尿路悪性腫瘍、前立腺疾患および女性泌尿器疾患の診療に力を入れています。尿路造影、泌尿器内視鏡、排尿機能、前立腺生検など専門の検査機器、設備が充実しており、外来で精力的に行っています。

手術件数が多いことも特徴で平成１９年の年間手術件数は４４０件でした。最近の手術は内視鏡手術や低侵襲手術が基本です。前立腺肥大症や尿路結石症の開腹手術はほとんど行われていません。悪性腫瘍も、腎癌や腎盂尿管癌などの上部尿路腫瘍に対しては約７割が腹腔鏡手術で行われ、膀胱癌も経尿道的内視鏡手術が主流です。

尿失禁や膀胱脱など女性泌尿器疾患に対する治療も積極的に行われ、良好な成績を得ています。高齢社会を迎えた今日、男女ともに排尿異常を主体とした泌尿器疾患は非常に増加し、泌尿器科の需要が高まっています。目下、最大の悩みは外来患者様の待ち時間が長いことです。

最近ではα遮断薬や抗コリン薬など排尿障害に対し有効な薬剤が開発され、前立腺肥大症や過活動膀胱などは、かかりつけ医で最初の治療が行われています。

また前立腺癌はＰＳＡ、腎癌は超音波検査の異常を契機に診断されることが多くなりました。

泌尿器科はもともと内科や他科の医師との連携を重視してきました。

今後、より良い泌尿器科医療を提供するためにどのようなことができるか模索中です。

病院病理科の紹介



病院病理科　教授　相羽　元彦

平成１７年５月の第１号からこの第８号までの本紙上で、地区医師会や近隣の先生方に向けて東医療センターの多くの臨床科・部門・センターの活動状況とスタッフが紹介されてきました。これらの臨床部門から、日々生検・細胞診・手術検体・迅速診断の検体の提出を受けて病理診断を行い、あるいは病理解剖を行っています。

おかげさまで臨床科・部門の新設を追い風に順調に病理検体が持続的に増加し、いずれも病理専門医の常勤２名（教授１、准教授１名）と非常勤講師１名（留学中）、兼任教授１名のスタッフで、２名の臨床細胞検査士を含む４名の検査技師とともに業務を担当しています。

日常の活動状況を記しますと、カラーコピー機を用いたマクロ画像・切り出し図のデジタル・データの保存は外科病理に極めて有効です。伝統的なホルマリン固定・パラフィン包埋切片のhematoxylin & eosin染色標本の顕微鏡観察は最も基本となるものですが、現在多くの病理所見の数量化・定量化が進んでいます。

また、文字通り分子病理学が臨床科にインパクトを与えています。例えばかつてはestrogen receptorやprogesterone receptorは生化学的な定量が行われていましたが、現在はもっぱら免疫組織化学的に核の染色性の半定量的評価によります。また、乳癌の術前・術後の化学療法・免疫療法の適応は、針生検・手術検体中の癌の病理学的な指標により決定されます。そして多くの原発不明癌や、難解な病変の解析・診断が、免疫組織化学のパネルの評価により解決しています。電子顕微鏡的な検索も非常に有効な外科病理部門の方法論です。

デジタルカメラを用いた顕微鏡画像の活用と、パソコンによる解析も進み、臨床医の学会発表や論文作成、学位論文などにも有効に活用されています。病理解剖症例は“最後の診断”の後に、研修医向けのmiｎiＣＰＣや全病院スタッフ向けの本来のＣＰＣによる検討が行われます。

今後皆様諸先生方にも参加していただける症例検討会を開催するなど開かれた東医療センター病院病理科にしたいと考えております。その節は宜しくお願い申し上げます。



（上高地）

麻酔科（ペインクリニック）の紹介



麻酔科 教授　川真田　美和子

痛みは外傷や病気に対する有用な生体防御の警告反応として必要不可欠な症状ですが、その一方で慢性的な痛みはそれ自体が身体的、あるいは精神的に有害な病態を引き起こすこともあります。ペインクリニックは、痛みを和らげることで、例えば痛くて眠れない、食欲がない、いらいらするなどの症状を治し、痛みの悪循環を断ち切り、ひいては生活の質を向上させていこうとする外来診療科です。

主として局所麻酔薬による神経ブロック療法に、鎮痛薬、精神安定剤などの投薬治療、血行を促進させる理学療法などを併用して痛みの診断と治療を行っています。

対象となる疾患は、腰痛、膝痛、下肢痛、肩痛、背部痛など整形外科領域でも手術適応とならない痛み、帯状疱疹後神経痛、血行障害による痛み、手術後の瘢痕が原因の痛み、三叉神経痛、頭痛、疼痛を伴わない突発性難聴、めまい、顔面神経麻痺など多岐にわたります。

また、難治性疼痛に対する特殊な治療法として最近保険適応となった脊髄神経刺激療法にも取り組んでいます。（要入院）加えて癌性疼痛に対しても疼痛緩和ケアを行っています。患者様のほとんどは各科からの紹介、依頼ですが、私どもから各科に依頼、相談することもあり、院内で連携を密にして最良の治療ができるよう努力しております。診療時間は毎週月曜・水曜の午後1時からで原則として予約制です。

スタッフはペインクリニック認定医４人で担当しております。

輸血部の紹介



輸血部　教授　　和田　恵美子

輸血部は患者様に適合した最も安全な血液を救命センター、手術室、病棟などに供給しています。ちなみに日赤から供される輸血用血液製剤の入庫管理、出庫管理、輸血用血液製剤関連検査（血液型、交叉試験、赤血球不規則抗体スクリーニング、クームス試験、抗体検索など）が主な業務です。

また、輸血外来では手術前の患者様に対する自己血採血計画、その他の輸血相談を行っています。東病棟地下１階に輸血検査室、輸血診察室、自己血採血室、血液照射室、輸血研究室が並んでいます。手術前の自己血採血には東病棟１階から地下１階におり、エレベーターのすぐ前が採血室です。外来棟地下の採血室とおまちがえないようよろしくお願いします。

なお輸血外来にはお薬手帳をご持参ください。



（自己血採血室）

リハビリテーション部の紹介



リハビリテーション部
部長　井上　和彦

東京女子医科大学東医療センターリハビリテーション部の歴史は、まだ浅く平成８年から始まりました。

外来は月曜日から土曜日（休診日を除く）まで、初診・再診ともに全て予約制で、病院内の各科よりの紹介状が必要となります。当部では骨折等の整形外科疾患、脳血管障害等で入院されている患者様を中心にリハビリを行っています。

リハビリテーション医学は予防医学、治療医学、保健医学とならび第４の医学とも呼ばれます。

またrehabilitationという語はre-（再び）とラテン語の形容詞であるhabilis（適した）と-ation（～にすること）からなっています。すなわち、「再び適した状態にすること」を意味します。この場合のhabilisとは「人間たるふさわしい」ということです。そのため、語源から解釈されるリハビリテーションとは、人間としてふさわしい権利・資格・尊厳・名誉がなんらかの原因によって傷つけられた人にたいし、その権利・資格・尊厳・名誉などを回復することを意味します。（リハビリテーションを考える上田敏　障害者問題双書）

現在、高度な医療が進み、治療を十分に行っても、病気や怪我によっては、身体的・精神的な障害が残ってしまうケースが増えてきました。そこで、障害を抱えたままでも家庭や社会において生活することを支援する、第４の医学リハビリテーションの必要性がでてきました。

今後ますますリハビリテーションの重要性が高まってまいります。

微力ながら、地域の皆様のお手伝いができればと考えております。何かありましたらご連絡ください。

薬剤部の紹介



薬剤部　部長　谷古宇　　秀

当センター薬剤部は、薬剤師１１名、事務職１名で業務を行っています。病院薬剤師の業務は、かって外来の患者様にお薬を調剤することが中心でありましたが、国の施策で始った医薬分業によって、現在は、入院している患者様を対象とした業務が多くなりつつあります。

特に、薬剤部内から病棟に行き、医師、看護師等と協力して、入院患者様への薬のサポートをすることが主な仕事になりつつあります。現在薬剤部では心臓血管外科、整形外科および眼科の病棟あるいは外来に出向き、患者様の服薬状況、持参薬の管理、薬の副作用の有無、相互作用のチェック等を行い、薬による被害を事前に防止して薬の適正使用に貢献しています。

また、製剤室では、市販されている薬剤で治療が難しい場合、医師の指示に従いさまざまな薬剤を調製しています。例えば形成外科でアンチエイジングとして行われている顔のシミを取るクリームや種々の軟膏なども調製しています。

医薬分業に伴い、荒川区薬剤師会と連携してゆくために医薬品についてさまざまの情報交換を行い、保険薬局で院外処方箋を調剤する際に役立つ情報を伝えています。

さらに、薬学教育六年制の実施に伴い、病院、保険薬局で各々２．５ヶ月ずつ実習を行うことが義務付けられ、当センターでも平成２２年度から薬学生の実習施設として体制を整えてゆきたいと考えています。

薬剤師は、医薬品を使用しているすべての患者様に対して医薬品が適正に使用され、薬の副作用を事前に防いだり、最小限に留めて治療効果を最大限にするよう日々努力しています。



（薬剤管理指導）

ＣＡＰチームの紹介

医療社会相談室　宮崎　裕子

当センターでは、１０月より子どもの虐待防止チーム（ＣＡＰ：Child Abuse Prevention Team、以下「ＣＡＰチーム」）を設置しました。

ＣＡＰチームとは、センター内で子どもの様子や保護者の言動等から、虐待を疑われる子どもに出会った時に、担当医、看護師、臨床心理士、ソーシャルワーカー等の各職種のメンバーを招集し、最善の対応を検討するための会議を開催するチームです。

今まで職員個人では判断しにくかった虐待の有無や、関連機関への連絡の必要性などに対して、ＣＡＰチームによる会議を行うことで、より適切な判断と対応が可能になると考えています。

虐待はそのほとんどが家庭内でおこることから、なかなか発見されにくいと言われています。子どもが医療機関に来院した時が虐待発見のチャンスと考え、チームの活動が虐待の早期発見につながるよう努力してゆきたいと思っています。

〈子どもの虐待とは〉

- 身体的虐待…殴る、蹴るなどの暴力　など
- 性的虐待……性的いたずら、性的行為の強要　など
- 心理的虐待…無視、拒否的な態度、罵声を浴びせる　など
- ネグレクト（養育の放棄または怠慢）……
  家に閉じこめる、食事を与えない　など

お知らせ

第13回「東京女子医科大学東医療センターフォーラム」
日時：平成21年２月14日(土)午後３時より（予定）
場所：ホテルラングウッド
荒川区東日暮里5-50-5 TEL03-3803-1234
講演：緑膿菌感染について・当院の感染対策について
性差・美容医療の現状
乳腺診療部のあゆみと現状など（予定）
お問い合わせ先：地域連携室　内線　6151または
業務管理課　内線　4433

編集後記

日暮里クリニックは開院して早くも１年が経ちました。東医療センターは狭くて不便・待ち時間が長い等、患者様にご迷惑をお掛けしないため、希望される患者様には日暮里クリニックでの診療をおすすめしています。お蔭様で少しずつ患者様も増えてまいりました。また、自費診療で、より良く年を重ね、健やかな老後のためにウエルエイジングドックも開設しております。東医療センターともども患者様のご紹介を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

昨今、米国発金融危機・年金問題・就職・親子の絆など不安定な時代です。先日のニュースで、俳優の故緒方拳氏は「不羨富不憂貧」と自筆の書と共に天国へ旅立たれました。このように生きたいものです。「無百世之憂」を願いたいものです。

次回の発行は平成２１年５月を予定しております。

（地域連携室　古賀）